

第 168 回 Brown Bag Lunch Seminar 報告書

テーマ : 2008 年国際衛生年に向けて:水と衛生分野のミレニアム開発目標を達成するには
講師 : クラリッサ・ブロックルハースト氏 / ユニセフ本部事業部水環境衛生部門チーフ
日時 : 平成 19 年 12 月 6 日(木)開場 12:00 講演 12:30-14:00

1. MDGと安全な水及び衛生の関連性

水と衛生は、子どもの生存と成長にとって重要な要素であり、安全な水と衛生なしには子どもは生きられない。そしてMDGにおいても、“2015 年までに、安全な水および衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する”と、水と衛生の重要性を謳っており、水と衛生の分野とMDGは様々な関連性を持っていることが確認されている。

特に、子どもの死亡率を削減するというMDGの目的において、安全な水と衛生の問題を解決することは必要不可欠である。安全な水は言うまでも無いが、衛生も同じように重要である。例えば、最も多い死因の一つである下痢症は、手洗い等、衛生教育が行き渡っていないことにより起きており、さらに、手を洗わない事が、肺炎やその他様々な病気の原因ともなっている。

また、水と衛生の問題は、MDGの目標である貧困削減とも関係を持っている。例えば安全な水を確保することができれば、水を集めるための時間が節約でき、その時間を経済活動に充てることができる。

2. 安全な水と衛生の現状

現在、世界では11億人、特にアジアでは6億5千万の人々が、安全な水を確保出来ていない。衛生に関しては、アジア太平洋地域で約20億人(45%)が劣悪な衛生状態の中で生活しており、衛生の問題は深刻である。衛生施設の整備について、アジアの各地域で進展が見られるが、仮に2015年にMDGの目標を満たせたとしても、いまだ6.3億人が非衛生的な環境におり、MDGはひとつの通過点に過ぎないことを認識する必要がある。

その他にも、衛生をめぐる問題として、貧困層と富裕層、地方と都市で発生する格差の問題がある。たとえば、インドネシアでは全人口のうち所得上位者である5分の1は、その97%が衛生施設を整備しているのに対し、全人口のうちの所得最下層者である5分の1は、その22%しか各家庭に衛生施設を整えていない。また、都市と地方の衛生施設の整備度合い格差は、都心で73%が整っているのに対し、地方では40%と、2倍近い開きがある。よって、衛生を考える際、貧困層と地方に重点を置く必要がある。

3. 何故、衛生が重要か

- 衛生は、人間の健康に必要不可欠である。

下痢症や肺炎の削減に対し、衛生施設の設置に加え、特に衛生教育が効果的であることがわかった。このことから、人間の健康のためには、衛生や、衛生教育に重点を置く必要があると言える。また、下痢症は栄養失調にもつながり、肺炎とともに重大な子どもの死因となっているため、この観点からも衛生の重要性が伺える。

- 衛生的な環境は、経済効果をも生み出す

衛生環境が整うことにより、様々な経済効果が生まれる。例えば、病気をする人が減れば、治療にかかるコストが減り、また、病気の期間が短くなれば、その分の時間を別な活動に充てることが出来、さらに、衛生施設が発達していれば、世界中からの旅行者も増える。このように、衛生は、健康面で効果があるだけでなく、経済的な効果もある。

- 衛生環境の整備は、尊厳の確立と社会的発展に貢献する(特に女性の)。

個々の家庭にトイレがないと、女性は用を足すために外出したり、長時間外で順番を待たざるをえなくなるので、病気に感染する可能性や、性的暴力や嫌がらせを受ける可能性が拡大する。さらに学校にトイレがないと、女子は学校に行きづらくなったり、親が心配して子どもたちを学校に行かせなくなったりする。よって、衛生環境の整備は女性にとって重要な要素となる。

4. 衛生環境を整備向上させるために、何をすべきか

- 衛生対策を進める政策強化の必要性。多くの国々では、衛生は水と比べて優先順位が低いことが多いので、衛生が必要不可欠であることを人々に理解してもらい、考え方を変わってもらう働きかけをする。
- トイレの価格を下げ、貧しい人など誰でも手に入れられるようにする。
- 民間部門との連携。公衆衛生に必要な設備等は、それぞれの地域の市場にて入手可能であるべきで、そのためには民間部門との連携が重要である。
- 地域社会によって行われる、全面的な衛生施設の整備。地域社会レベルと家族レベルにおいて、衛生環境整備の重要性を教育、促進していき、すべての家庭においてトイレの設置を促進する。

5. 全面的な衛生施設の整備は、実現可能

全面的な衛生施設の整備を行うには、年間100億ドルの投資が必要である。しかしこれはヨーロッパ人が毎年アイスクリームにかかる値段と同じであり、実現可能な数字である。また、実際にベトナムにおいては、安全な水の確保と衛生施設の整備に関して、MDGの目標を達成する事が見込まれている。

6. ユニセフの取組み

➤ 戦略

- 2015年までに、安全な水及び衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する。
- 全ての学校において、子どもに優しい安全な水と公衆衛生施設、そして衛生教育を充実させる。

➤ プログラム

- 水の供給、緊急事態への対応、学校での手洗いの励行
- 衛生教育の促進、全面的な衛生設備の整備、安全な水の供給の促進
- 公共ポンプやタンク、家庭における塩素消毒を利用した水の安全性の確保

➤ 3つの柱

- 衛生政策促進の環境作り
政府と共同して公衆衛生促進のための政策を打ち立てていく。その際、経済的な効果についても強調していく。
- 衛生に対する考え方の移行
手洗いの励行。特に、料理を作る前、トイレの後など、重要なタイミングにおける手洗いの励行。
- 安全な水と衛生施設の供給
地域社会、家族単位、学校レベルにて行う。

安全な水と衛生施設の確保は、最も重要な問題であり、衛生教育の促進や衛生政策の強化といった形で、より効率的で能率的な行動が求められている。

➤ 2008年国際衛生年

- 認識とコミットメントの増大
- 公衆衛生プログラムの拡大と衛生政策の増強における実質的コミットメントの確保
- 能力開発
- 持続可能性の強化